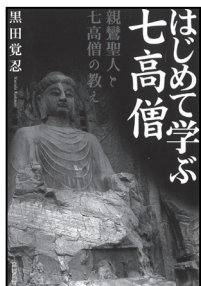


# 教化センターだより

## No. 416

発行日 2022年2月1日  
発行 真宗大谷派大阪教区  
教化センター  
TEL 06-6251-0745  
FAX 06-4708-3278

### ◆ 御堂文庫 蔵書の紹介 ◆



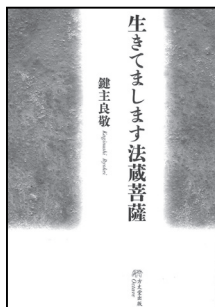
〈発行〉本願寺出版

## 『はじめて学ぶ七高僧』 —親鸞聖人と七高僧の教え—

〔著 者〕黒田 覚忍

浄土真宗聖典の学習誌である『季刊せいてん』に平成十年の第四二号から十五回にわたって掲載された黒田さんの「親鸞聖人と七高僧の教え」が、このたび一冊にまとめて刊行されることになりました。

(序によせてより引用)



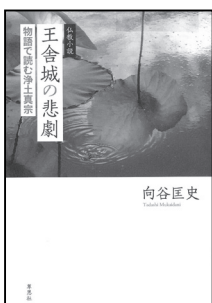
〈発行〉方丈堂出版

## 『生きてまします法蔵菩薩』

〔著 者〕鍵主 良敬

本書の中心は、先生の言葉を借りるならば「脳味噌の闇と身の事実の異なり」である。先生は以前から第六意識と第八アラヤ識の関係について言及されていたので、こうした意味の言葉は以前からお聞きしていた。

(序より引用)



〈発行〉草思社

## 『仏教小説 王舎城の悲劇』 物語で読む浄土真宗

〔著 者〕向谷 匡史

この事件にはお釈迦さんが登場してまいります。お釈迦さんの甥で、お釈迦さんを殺して教団をのっとりとする悪役僧侶のダイバダッタも登場する。人間が普遍的にかかえる欲望と苦悩がこの事件にあることから、今日的テーマでもあります。

(「第一講義」より引用)

— 教化リーフレットの

「活用について」 —

4枚の「教化リーフレット」は、各寺院・教会において「寺報」や個別に複写しての配布、同朋会や聞法会での教材として活用いただければ幸いです。

— 3月のリーフレット —

リーフレット①

「掲示板のごとは……教化センター」

「私の大切を問うてくる仏さま」

リーフレット②

「今月のことば」……高部 渡

「真宗教証興片州 選択本願弘悪世」

リーフレット③

「もしもし相談」……茨田通俊

「お隣に住む方のマナーが悪くて……」

リーフレット④

「仏典マンガ・仏さまのおしえ」

『ビンドーラの鉢』

(敬称略)

# 私の大切を

# 問うてくる

# 仏さま

お寺の掲示板にこんな言葉を書いてみました。「私は」「のために生まれてきました。「」に適切な言葉を入れてください」。

こういうクイズ形式の言葉は反響も大きく、お参りの時に、あれ答えは何?と度々尋ねられました。答えはないんですけど、皆さん真剣に考えて下さっていたのでしよう、数多くのブリーングをいただきました。そんな中、一緒に答えを考えているうちに、今自分が大切にしているものをに入れてみると面白い事に気がつきました。お金、健康や美容、子どもや親、連れ合い、趣味、時間など色々とし合いました。ですがこれらの何を入れてもじっくりき

ません。それぞれ大切なものには違いないのですが、そのために生まれてきたとなると何か違う。貯金や健康維持、家庭円満等これらを集めていけば幸せになれるはずと想定している正解が通用しない問いです。そして何より考えているとかえって日頃の私の「大切」を問うて来るものを感じます。

私たち真宗門徒の先達は、その真実から私を問うて来るはたらきを如来と呼び、懇ろに仏さまに参られたのでしよう。念仏せよとの勧めには、何が本当に大切なことかと、私を問うて来るはたらきを宗に、今を大切に生きて欲しいとの願いが込められているのです。

(教化センター)

真宗教証興片州  
 選択本願弘悪世

真宗の教証、片州に興す。  
 選択本願、悪世に弘む。

「真」は、まこと、と読み、真実をあらわします。「宗」は、むね、と読み、中心、肝要なことを意味します。法然上人によって、遙か遠い国インドのお釈迦様からもたらされた仏教が、アジアの片隅、日本まで到達し、やっと、悪世を生きる私たち民衆の生活の中心にすえられ、本当の意味において仏教実践のかたちをとった、と親鸞聖人は喜んでおられるのです。仏教実践のかたちとは言うまでもなく「南無阿

弥陀仏」、称名念仏です。それまでの仏教は、仏の示された諸善万行の中から厳しい「行」自力を尽くすことに

よって証をえて仏に成っていたこととするものでした。それは自分の生活をなげうってまで全力を尽くさなければ成就するものではありません。しかし、現実はどうでしょう。『歎異抄』では「うみかわにあみをひき、つりをして世をわたるものも、野やまに、ししをかり、とりをとりて、いのちをつぐともがらも、あきないをもし、田畠をつくりてすべるひと」とあります。その時代の人も、現代の私たちも、

民衆は命がけで働かねば生きていけません。末法の悪世を生きる生活者に諸善万行を実践しようにも余裕すらもないのが現実です。その状況の中では、私の側から「行」というものが成り立たないのです。それに対して法然上人がお示しになられた「行」は、いつでも誰でも何処でも行ずることの出来るよう阿弥陀自身が選択し、私たちに回向くださった易行、称名念仏でありました。法然上人により浄土往生の道が開かれ、悪世を生きることに精一杯の民衆にひろくひろがったのです。しかしながら、「南無阿弥陀仏」に込められた仏の誓願の心をいただき、「このことひとつ」

と頷くよろこびがなければ、ただ称えるだけでは意味がありません。易行である代りに難信という大きな課題があります。「行」に対して「信」が中心となり仏の誓願のころを聞き続けること＝聞法が大事になってきます。法然上人の教えを受け継ぎつつ、さらにこの「信」をより明確に中心に据えられた歩みが親鸞聖人の足跡といっても過言ではないでしょう。

「口ナ禍という悪世を生きる私たちがいかに聞法の場を開いていくのか？大きな課題をいただいている気がいたします。」

(宮部 渡)

今月のことば出典 『正信偈』

『真宗聖典』 207頁  
 『真宗大谷派 勤行集』(赤本)

## もしもし相談



お隣に住む方の  
マナーが悪くて…

### 問

お隣に住む方が深夜まで騒いだりするなど、マナーが悪く困っています。ご近所の方は無視を決め込んで、子どもたちにも関わらないように言い聞かせているようです。私自身もできれば関わりたくないのですが、自分の子どもにも人を無視するようにと言う気になれず悩んでいます。(42歳・女性)

### 答

社会のルールを守れない人たち、他人の迷惑を考えない人たちの存在は、本当に困ったものです。公衆道徳というものは、多くの人がお互いに不愉快

な思いをせず、快適に生活できることを前提として成り立っています。これを守れない人は、多数の人間が受け容れている「常識」よりも、自分の価値観に基づいた快適さを優先して行動していると言えます。

しかしよく考えてみると、多くの人が支持しているからといって、その事柄が絶対に正しいという根拠はどこにもないわけです。私たちは、もしかすると自分の生き易さにとらわれて、その妨げになる対象を排除しようとしているのかも知れません。あるいは自分の価値観を共有してくれる人の支持を背景にして、異質な者への思いやりの気持

ちを見失っていることがあるかも知れません。

彼らが厄介な行動に至るのにも、単に本人の意識が低いということに止まらず、背景に様々な要因が考えられます。問題の原因がすべて個人に帰するとは限らず、生きにくい社会の側面を表しているという捉え方もできないわけではありません。

その方に生活習慣の改善を促す場合には、決して相手を排除しないという寛容な眼差しをもって、お声かけをしてみることが大事でしょう。相手の事情にも耳を傾けるような姿勢で接することで、先方の態度も変わって来られるかも知れませんね。

子どもさんたちへの対

応もご心配のようですね。ルールを守らない者は悪い奴だと決めつけるのではなく、この機会に彼らは何故そうした迷惑行為に及ぶのかを一緒に考えてみて下さい。私たちも自分の気が付かないところで、誰かに迷惑をかけて不愉快な思いをさせているかも知れません。

自分に合わない人、他人の許せない行為も、なかなか気付かなかった私自身の姿を教えられる縁になり得るものです。迷惑をかけないと生きていけない存在を共に悲しむ眼が開かれる時、人や社会がそれまでとは違って見えるのではないのでしょうか。

(茨田 通俊)



# 仏典マンガ・仏さまのおしえ



絵：小川ゆきえ〈200〉



参考仏典：『仏教説話大系3』

仏典や仏教童話などを参考・題材にして教化センターが創作したお話です。